

議案

小作米減免斗争に関する件

三養基地区提案

理由

昭和五年の豊作は、農産物の暴落となり、戦争による軍需品の高騰に伴ふ肥料農具一般物価の値上りは、農産物価格との差を益々増大せしめ、更に税金の加重は、佃農大衆の生活窮乏に拍車をかけ、収穫后三ヶ月を終ては、食米もないと言ふのが全国佃農小作人の状態である。

而して、昭和八年度の持越米は、米千万石余で、予想持越前年の二倍に相当してゐるのである。吾々小作人は、三月を経れば、食米を存し、米千万石の米が何処に余つてゐるか、それは言ふまでもなく、地主から買ひあはれた政府の倉庫や地主の家で積まれているのである。

吾々小作人は、食へないのだから、地主の倉庫にまた政府の倉庫にあり余つてゐると言ふのは、一体何故か、それは地主が高利、小作米を搾り取つてゐるからである。

農民組合では、十年間小作料減免を主要題目として闘つてきたのであるが、打続く不景氣によつて、吾々は喰えなくなるばかりであるから、「食えんから小作米をマケロ」と勇躍に闘つておれば、

実行方法

小作米減免斗争同盟、小作米マケロの会等、未組組農民も含めて斗争し、尚且地主側の斗争によつて、地主に關係のある小作人全部を斗争し、逆とせねばならぬ。

小作米減免と言へば、秋の収穫期になつてから突然、未組組農民に付きかかると言ふやうな方法であつたために、未組組農民を斗争に打ち上らせたことが困難であつた。それで、かかる方法を改めて、春の肥料買入、部落における日常問題、村税信用組合の借金の差押替について、先づ充分に援助し、密接な關係と信頼をつぎ、秋の収穫期を前に、ビラ、伝單、座談会による宣傳によつて、斗争に打ち上らせてゐる。

土地引上 立入禁止 反対斗争の件

三輪村支部提案

理由

小作人が土地を耕作することによつてのみ負い、在りから一家族の生活を支へてゐることは、言ふまでもない。而して、最近地主的土地引上は激増し、吾々小作人の生活を脅威してゐるのである。

農林省発表(官)の統計を、余りアテにならぬが、によると、昭和八年一月から九月までの土地引上の件数が、一千六百九十七件で、総件数の六三・一%を占め、昭和六年の三八%に比較すると、驚くべき増加となつてゐるのである。

この土地を中心とした斗争の特色的行動をみると、

第一、小作人の生活が、著しくなり、小作米を拂ふにも、拂はず、数年もつれた結果の土地引上、区劃整理、農林、土木事業等、よる土地引上、新らしく加わり、また土地買入、等が多か、また、地主が高小作米を搾取するために、従来の小作人から土地を取り上げ、新小作人に小作せしむる等の原因による土地引上を見逃してはならぬ。

而して、之等の土地引上は依然として、未組組農民、日本農民組合同盟、協調組合、単独組合等、多か